

所報 あきた

所報 あきた 112号

平成27年9月1日発行

発行所 曹洞宗秋田県宗務所

発行責任者 越 姓 玄 悦

〒010-0812 秋田市泉三嶽根15-18

T E L (018)868-6871

F A X (018)868-6872

<http://soto-akita.com>

info@soto-akita.com

題字 能代市倫勝寺 山田晃一



- 平成26年度事業報告・収支決算報告
- 特派布教師・梅花特派師範からのお便り
- 梅花流秋田県60周年記念奉詠大会
- 宗務所護持会総会・お地藏さん開眼法要

退任教区長



新任教区長



各教区長のお名前は「宗務所だより」に掲載しています。

通 常 所 会



議長 第16教区長 嵯峨宗一老師
副議長 第18教区長 藤原徳義老師





決算所会を終えて

秋田県宗務所 所長 越 姓 玄 悦

幹線道路に大型の観光バスの列が目につくようになると夏祭りの季節の到来を実感致します。八月に入り記録的な猛暑の日が続いておりますが、管内御寺院様におかれましては益々御健勝にてお過ごしのことと心よりお慶び申し上げます。

去る七月二十四日、参与、所会議員諸老師の御出席のもと、通常宗務所会が開催され、上程の案件すべてが満場一致にて御承認いただきましたことを御報告申し上げますとともに、心から感謝申し上げます。

平成二十六年事業報告及び収支決算報告等御審議いただきました案件の詳細につきましては掲載ページをご覧いただければ有難く存じますが、昨年度は「禅と梅花の大会」のスローガンのもと湯沢市で初めて開催された

中央・県南地区梅花流奉詠大会を始めとして記憶に残る事業の多い年度となりました。役員交替の年でもあり、滞りなく職務の引継ぎを終えることができましたのも一重に前所長以下前任者の方々の御指導の賜物と改めて感謝申し上げます。

四月から新しい年度に入り、本年二祖様六五〇回大遠忌をお迎えする大本山總持寺のお膝元での開催となった梅花流全国奉詠大会、特派布教師・梅花特派師範の巡回、宗務所護持会総会を兼ねた岩手県大槌町への研修旅行等行事が続きましたが、教区長諸老師、県内御寺院様の御協力をいただき、大過なく終えることができました。大槌町では、昨年県内御寺院様の浄財により建立致しましたお地藏様の点眼法要もお勤めすることができました

た。七月に入り歓喜寺様を会場にお借りしての現職研修会、梅花流秋田県六〇周年記念奉詠大会と参加者の多い事業が重なりましたが、関係各位の御尽力により、いずれも盛会裡に終えることができました。

八月以降には、十月七日からの大本山永平寺にての本山研修、十月三十日の宗務所・禅センター創立二十五周年記念事業が控えております。記念事業は節目の年に相応しいものになるよう関係各位のお力添えをいただきながら準備を進めて参りますが、記念公開講演には花園大学教授で仏教学者として御活躍中の佐々木閑先生をお招きする予定であります。昨年の仏教講座に続いての講演となりますが、たくさんの方々の御来場をお待ちしております。

本年は戦後七十年の年にあたります。「戦後」と呼ばれる時代が永遠に続くことを心から念願するとともに、管内御寺院様の御隆昌、御法体堅固を切にご祈念申し上げますと致します。

(八月七日記)

平成26年度 曹洞宗秋田県宗務所事業報告

26 年		事業名	開催場所	備考	人数
4 月	10日～11日	本部・人権主事・教化センター人権三者会議	ビューホテル		
	17日	寺族会総会	宗務所		78名
		所報第108号発行		予算報告 他	
5 月	9 日	布教委員会・布教協議会	宗務所		55名
	23日	婦人会総会	宗務所		39名
	28日～31日	梅花流全国奉詠大会	島根県	カミアリーナ	
6 月	9日～14日	特派布教巡回	管内18教場	特派布教師3名	1,322名
	12日～13日	管区宗務所役職員人権啓発研修会	ビューホテル	秋田県当番	8名
	19日	監査会	宗務所		
	16日～21日	梅花特派巡回	管内17教場	特派師範3名	893名
	25日	宗務所護持会総会	宗務所		35名
7 月	13日	禅と梅花の大会(中央・県南奉詠大会)	湯沢市	湯沢市文化会館	967名
	17日～18日	現職研修会	歓喜寺		176名
	26日	県北奉詠大会	能代市	二ツ井町総合体育館	576名
	28日	通常所会(決算)	宗務所		
8 月		禅の集い	管内寺院		
		所報第109号発行		決算報告 他	
	8日～18日	宗務所休務		盆休み	
	20日～21日	徒弟研修会	未定		中止
9 月	8日～11日	本山研修会	總持寺	宗務所休務	83名
	18日	宗務所長杯野球大会	秋田市		
	26日	梅花検定会(県北地区)四級師範・三級詠範・三級教範まで受検可			77名
10月	17日	寺族宗務所集会	宗務所		57名
11月	1 日	禅センター記念日			
	4 日	禅センター設立集会(永年・寺族表彰式)	秋田市	キャッスルホテル	33名
	10日	布教協議会	宗務所		30名
	14日	梅花検定会(中央・県南地区)四級師範・三級詠範・三級教範まで受検可			75名
12月	2 日	臨時所会	宗務所		
	27日～1月7日	宗務所休務			
27 年					
1 月		所報第110号発行		新年号	
	26日	宗務所梅花講役員会	宗務所		13名
2 月	20日	諮問委員会	宗務所		
	23日	宗務所梅花講講長会	宗務所		27名
3 月	20日	通常所会(予算)	宗務所		

曹洞宗秋田県宗務所・禅センター 平成26年度 事業報告

【禅センター布教部・研修部・梅花部】

No.		月 日	開始時間		事業名・備考	参加人数
1	平成26年	4月4日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	17名
2		5月2日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	27名
3		5月27日(火)	10時～	布教部	布教師養成講座	25名
4		6月5日(木)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	21名
5		6月13日(金)	10時～	梅花部	宗務所講師等研修	31名
6		7月3日(木)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	20名
7		7月23日(水)	10時30分～	布教部	写経会	5名
8		〃	13時～	布教部	仏教講座①(～16時)	37名
9		9月4日(木)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	20名
10		9月12日(金)	10時30分～	布教部	写経会	6名
11		〃	13時～	布教部	仏教講座②(～16時)	32名
12		9月18日(木)	9時30分～		宗務所長杯野球大会	49名
13		9月29日(月)	13時～	研修部	研修会	15名
14		10月3日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	20名
15		10月23日(木)	9時～	布教部	仏教講座・野外研修	33名
16		11月4日(火)	17時～		禅センター設立集会	33名
17		11月7日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	21名
18		11月10日(月)	13時～	研修部	研修会(布教協議会)	30名
19		11月14日(金)	13時～	布教部	仏教講座・公開講座	170名
20		12月5日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	21名
21		12月8日(月)	10時30分～	布教部	写経会	6名
22		〃	13時～	布教部	仏教講座③(～16時)	18名
23	平成27年	2月6日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	24名
24		2月26日(木)	14時～	布教部	布教師養成講座	23名
25		3月6日(金)	10時30分～	梅花部	梅花流講習会(～15時)	27名
26		3月10日(火)	13時～	研修部	実務研修会	20名

平成26年度 曹洞宗秋田県宗務所歳入歳出決算書

一金 59,960,292円 平成26年度歳入決算額

一金 48,992,581円 平成26年度歳出決算額

一金 10,967,711円 差引残額

(単位：円)

	本年度予算額	本年度決算額	比較増減
歳入合計	57,905,504	59,960,292	2,054,788
歳出合計	57,905,504	48,992,581	△8,912,923
差引残額	0	10,967,711	10,967,711

歳入の部

款	項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説明
1. 賦課金		41,387,960	41,316,000	△71,960	
	1. 寺格割	1,839,000	1,839,000	0	格地@10,000×24 法地@5,000×317 准法地@2,000×7
	2. 級階割	35,996,960	35,916,000	△80,960	448,950点×80円
	3. 教師割	3,552,000	3,561,000	9,000	大教師@42,000×7名 権大教師@30,000×52名 正教師@6,000×174名 一等教師@3,000×131名 (一等教師補1名含む) 二等教師@2,000×135名 (二等教師補1名含む)
2. 手数料		2,400,000	2,460,380	60,380	
	1. 手数料	2,400,000	2,460,380	60,380	各種申請手数料 宗務所義財金 梅花義財金
3. 補助金		700,000	2,075,696	1,375,696	
	1. 補助金	700,000	2,075,696	1,375,696	本庁事業補助 事務補助 徒弟講習会補助 梅花補助 教化補助 現職講習会補助 管区集会 他
4. 諸収入		3,800,000	4,490,672	690,672	
	1. 諸収入	3,800,000	4,490,672	690,672	現職研修会受講料@7,000×176名 梅花検定料@3,000×152名 梅花奉詠大会参加料@2,000×742名 大遠忌局1,009,600 預貯金受取利息 他
5. 繰越金		9,617,544	9,617,544	0	
	1. 繰越金	9,617,544	9,617,544	0	
歳入合計		57,905,504	59,960,292	2,054,788	

歳出の部

款	項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説 明
1. 人 件 費		16,640,000	15,942,714	△697,286	
	1. 役職員手当	5,040,000	4,760,000	△280,000	@70,000×6名×9ヶ月 @70,000×5名×2ヶ月(9・10月所長不在) @70,000×6名×1ヶ月(11月所長・副所長不在)
	2. 書記手当	1,680,000	1,680,000	0	@70,000×2名×12ヶ月
	3. 傭 人 費	200,000	60,000	△140,000	
	4. 旅 費	4,600,000	4,100,714	△499,286	管区宗連 管区集会 教化センター 本庁 各種講演会 本山研修会 梅花流全国大会 他
	5. 費用弁償	4,000,000	4,222,000	222,000	4/1～12/10 所長6,000 副所長8,000 教化8,000 庶務6,000 梅花4,000 人権5,000 田中書記3,000 明石書記3,000 12/10～3/31 所長8,000 副所長7,000 教化7,000 庶務8,000 梅花5,000 人権4,000 明石書記3,000 佐藤書記8,000
	6. 期末手当	1,120,000	1,120,000	0	@70,000×2×8名
2. 事 務 費		4,400,000	3,094,165	△1,305,835	
	1. 備 品 費	650,000	83,676	△566,324	書籍 事務機器 他
	2. 通 信 費	1,000,000	853,537	△146,463	電話料 郵便料 配送料 他
	3. 印 刷 費	600,000	252,101	△347,899	封筒 賞状 宗務所条例 他
	4. 消耗品費	500,000	503,454	3,454	雑貨 事務用品 他
	5. リース料	550,000	455,985	△94,015	コピー機・電話機・OA機器リース料 フレッツジャパン月謝 等
	6. 広 報 費	1,100,000	945,412	△154,588	宗務所所報3回発行
3. 管 理 費		2,000,000	2,184,986	184,986	
	1. 維 持 費	700,000	935,255	235,255	保険料 清掃費 浄化槽管理料 警備保障 除雪費 浄化槽プロア交換 他
	2. 地 代	250,000	250,000	0	天徳寺様借地代
	3. 営 繕 費	350,000	108,000	△242,000	修繕費 他
	4. 光 熱 費	700,000	891,731	191,731	電気 ガス 水道 灯油 他
4. 会 議 費		1,500,000	1,104,581	△395,419	
	1. 所 会	1,300,000	1,027,581	△272,419	所会3回
	2. 委 員 会	200,000	77,000	△123,000	監査1回 諮問1回 災害対策協議会1回
5. 事 業 費		10,380,000	9,323,852	△1,056,148	
	1. 事 業 費	2,450,000	1,887,986	△562,014	現職研修724,602 本山研修623,384 寺族集会90,000 所長杯150,000 予修法要(禪と梅花の大会)300,000
	2. 布教伝道費	1,000,000	853,150	△146,850	特派教場@20,000×18 特派布教師送迎費243,150 宗務所布教師・会場補助250,000
	3. 梅 花 費	5,200,000	5,196,730	△3,270	梅花特派教場補助@20,000×17教場 梅花全県奉詠大会(2会場)2,477,301 役員会・講長会300,000 検定会800,000 師範会700,000 一泊研修会100,000 特派師範送迎費224,440 梅花養成所200,000 他
	4. 教 化 費	880,000	639,350	△240,650	布教委員会300,000 布教協議会196,830

款	項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説 明
					禅の友年間購読料28,800 東北管区寺族会負担金20,000 各種研修会 等
	5. 慰 問 費	150,000	90,000	△60,000	住職永年勤続50年・60年祝膳料 50年×3名
	6. 人権擁護 推進費	700,000	656,636	△43,364	全国人権研修会51,540 書籍資料12,096 管区人権啓発研修会5回323,000 他
6. 禅センター事業費		2,400,000	2,057,190	△342,810	
	1. 会 議 費	150,000	158,750	8,750	総務部会議費 各委員会
	2. 布教部費	700,000	708,977	8,977	仏教講座 写経会 布教師養成講座
	3. 研修部費	600,000	345,866	△254,134	各種研修会
	4. 梅花部費	450,000	329,171	△120,829	梅花流講習会
	5. 運 用 費	500,000	514,426	14,426	備品 設立記念事業費 等
7. 補 助 費		8,157,000	8,850,680	693,680	
	1. 事務補助	4,200,000	4,131,600	△68,400	所費の10%各教区へ
	2. 事業補助	347,000	348,000	1,000	教区主催現職研修会・寺族研修会補助金
	3. 所護持会補助	700,000	1,461,080	761,080	宗務所護持会700,000 管区集会761,080 (管区補助)
	4. 禅の集い	800,000	800,000	0	教区寺院開催補助金
	5. 教化団補助	2,110,000	2,110,000	0	保護司200,000 曹青会1,000,000 寺族会350,000 尼僧団100,000 婦人会300,000 教誨師60,000 布教師の会100,000
8. 表 彰 費		300,000	318,622	18,622	
	1. 表 彰 費	300,000	318,622	18,622	住職勤続・寺族表彰額縁代194,722 記念品代123,900
9. 慶 弔 費		2,400,100	1,890,000	△510,100	
	1. 慶 弔 費	400,000	340,000	△60,000	結制・落慶 本葬 等 15ヶ寺
	2. 本山慶弔費	100	0	△100	両本山慶弔会 等
	3. 弔 慰 金	2,000,000	1,550,000	△450,000	管内寺院住職・東堂・副住職100,000×13名 寺族50,000×5名
10. 負 担 金		539,400	539,400	0	
	1. 全国所長会	156,600	156,600	0	348ヶ寺×@350 全国所長会災害援護金348ヶ寺×@100
	2. 布教助成費	208,800	208,800	0	348ヶ寺×@600
	3. 管 区 費	174,000	174,000	0	348ヶ寺×@500
11. 交 際 費		400,000	349,366	△50,634	
	1. 交 際 費	400,000	349,366	△50,634	
12. 食 糧 費		1,150,000	1,092,621	△57,379	
	1. 所会食糧費	600,000	659,298	59,298	通常所会(2)
	2. 委員会食費	50,000	24,947	△25,053	監査会(1) 諮問委員会(1) 災害対策協議会(1)
	3. 所内食糧費	500,000	408,376	△91,624	
13. 財政調整費		7,068,504	2,040,000	△5,028,504	
	1. 災害見舞金	2,000,000	0	△2,000,000	
	2. 記念品代	1,040,000	1,040,000	0	役職員・教区長退任記念品代
	3. 財政調整金	3,028,504	0	△3,028,504	設備費・災害対策委員会援護金
	4. 基本金繰出金	1,000,000	1,000,000	0	
14. 選 挙 費		100,000	53,704	△46,396	

款	項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説 明
	1. 副 貫 首	100	0	△100	
	2. 宗務所長	50,000	45,554	△4,446	通信費 立会人費用弁償
	3. 宗会議員	50,000	8,150	△41,850	通信費
15. 雑 費		170,400	150,700	△19,700	
	1. 雑 費	170,400	150,700	△19,700	町内会費 新聞購読料 置き薬 他
16. 予 備 費		300,000	0	△300,000	
	1. 予 備 費	300,000	0	△300,000	
歳 出 合 計		57,905,504	48,992,581	△8,912,923	

	本年度予算額	本年度決算額	比 較 増 減
歳 出 合 計	57,905,504	48,992,581	△8,912,923

平成26年度 曹洞宗秋田県宗務所歳入歳出剰余金処分

歳 入 合 計	59,960,292円
歳 出 合 計	48,992,581円
差 引 残 高	10,967,711円

上記剰余金を下記の通り処分する。
記

金 10,967,711円を平成27年度会計に繰り入れる。

以 上

平成27年度 曹洞宗秋田県宗務所補正予算

歳入の部 (単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	現計予算額	説 明
5. 繰 越 金	8,483,040	2,484,671	10,967,711	
1. 繰 越 金	8,483,040	2,484,671	10,967,711	前年度繰越金
歳 入 合 計	56,450,000	2,484,671	58,934,671	

歳出の部

項 目	当初予算額	補正予算額	現計予算額	説 明
3. 管 理 費	2,450,000	400,000	2,850,000	
3. 営 繕 費	700,000	300,000	1,000,000	玄関ポーチ修繕
4. 光 熱 費	800,000	100,000	900,000	昨年度決算額より
13. 財政調整費	6,200,000	2,084,671	8,284,671	
3. 財政調整金	2,450,000	2,084,671	4,534,671	
歳 出 合 計	56,450,000	2,484,671	58,934,671	

平成26年度 宗務所基本金積立会計報告

(将来の宗務所改築のための積立)

項 目	金 額	付 記
前年度繰越額	14,549,700	
一般会計繰入金	1,000,000	
雑 収	2,444	預金利息
合 計	15,552,144	

積立金 15,552,144円 次年度へ繰越

平成26年度 東北管区事業報告

26 年		事 業 名	開催担当	備 考	人数
4 月	10日～11日	本部・人権主事・教化センター人権三者会議	秋田県	ビューホテル	
5 月	21日～22日	管区宗務所連絡協議会	岩手県	つなぎ温泉	
6 月	12日～13日	管区宗務所役職員人権啓発研修会	秋田県	ビューホテル	59名
7 月	1 日～2 日	青少年教化指導者研修会・布教師特設検定	宮城県	メルパルク仙台	28名
	4 日	第43回教化フォーラム・東北管区寺族会研修会	教化センター	モントレ仙台	
	10日～11日	管区集会 大遠忌予修法要併催	宮城県	松島 大観荘	
	17日～18日	管区婦人会研修会	福島県	磐梯熱海ホテル華の湯	
10月	7 日	教化活動企画委員会	教化センター	秋保	
	17日	禅を聞く会	青森県	八戸市公会堂	
	28日	教化活動推進委員会	教化センター		
11月	10日	第44回教化フォーラム	教化センター	メルパルク仙台	
	25日～26日	管区布教講習会	宮城県	メルパルク仙台	
12月	16日	宗議・宗務所連絡協議会			
27 年					
1 月		人権主事協議会委員会	教化センター		
2 月	2 日	教化活動企画委員会	教化センター		
	19日	教化活動推進委員会	教化センター		



宗務所護持会長再任に当たって

曹洞宗秋田県宗務所 護持会長 大淵 宏 道

然したる事も出来ないうちに初めての護持会長任期二年が過ぎ、新たな二期目に入る事になってしまいました。護持会には大きな課題が山積している事が少しずつ見えて来ましたが、これが克服は容易ではなさそうです。宗務所長老はじめ各教区護持会長の皆様のお力をお借りして出来ることに一つ一つ取り組んで行きたいと思っておりますので、ご指導・ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。

せっかくの機会ですので、護持会長になつてからのこれまでの報告を兼ねて主な行事を振り返り、皆さんの率直なご意見を頂きたいと思ひます。

最大の行事は大本山総持寺二祖峨山禪師様の650回大遠忌予習法要が昨年7月10日、大本山總持寺紫雲臺猊下ご出席のもと松島大観莊に於いて営まれたことでした。盛大な法要は莊嚴そのもので、参加させていただき大きな感動を頂くことが出来ました。

今年4月23日には宗門護持会評議員会が東

京の檀信徒会館で行われ越姓所長老と共に初参加し、宗門としての大きな考え方・方向性について学ぶことが出来ました。翌24日には大本山總持寺での二祖峨山禪師様の650回大遠忌予習法要に参加させて頂きました。

秋田県宗務所の恒例行事「檀信徒大本山研修会」は昨年9月8日から大本山總持寺で83人が参加して行われました。初日は薬石、法話、坐禅で開枕。翌朝大祖堂のお務めでは大悲心陀羅尼の有名な「真読」を体験、蜷峨両尊法会にも参加できたことは有難い機会でした。その上参加者それぞれの先祖供養までしていただいたことは望外の喜びでした。その後関東の霊場大雄山最乗寺参拝、熱海MOA美術館見学後稲取泊。翌日は箱根、仙石原を通り世界遺産に指定された富士山の5合目までスバルラインで登り富士の雄姿に触れ山中湖畔泊。最終日は麓の湧水群を見学した後帰路に。心を許しあえる同じ宗門の仲間との交流・観光はとても得難い有意義な機会でした。

た。今年は大本山永平寺研修でその後の京都国立博物館や有名寺院の見学もありますので、多くの皆さんのご参加をお勧めします。

今年の秋田県宗務所護持会定期集会では宗務所のお計らいで東北大震災慰霊地藏尊像開眼法要を6月25日現地岩手県大槌町旧庁舎前で執り行うことになりました。除幕式は昨年8月3日行われており、開眼供養は前宗務所長佐々木正悦老師の悲願でもありましたが宗議会展席のため参加出来ず残念なことでした。新所長の越姓玄悦老師の下、各教区長老師の出席をいただき、各教区護持会長が参列し厳肅に執り行われた。地元江岸寺住職の大萱生良寛老師もご出席くださいましたが、母親もご子息の副住職までも津波で失われた中で復興に奔走されており、当時の生々しいお話に私ども参加者は激しく胸を打たれました。風光明媚な浪板海岸の三陸花ホテル「はまぎく」泊。総会では平成26年度の会務報告並びに決算の承認、平成27年度の事業計画案並びに予算案は異議なく承認され、新役員も全員が留任と言う事になりました。また護持会活性化についての積極的な発言に、宗務所長、教化主事さんから前向きな発言があり、これからの活発な護持会活動が期待されました。

翌日は被災した大槌町の状況を「語り部」の説明を聞きながらの視察。尚残る当時の津波の凄まじさの傷跡をまざまざと見せつけられ、又まだ始まったばかりの堤防工事や住宅地の嵩上げ工事など桁違いのスケールの大きさに度胆を抜かれ、これからの復興の厳しさを実感しました。この度のお地藏さんが被災地の皆さんのささやかな支えになってくれることを心から祈りました。次に被災から立ち上がり見事新しいお寺を建立され、地域の人々の精神的な支えになっている釜石の常楽寺を視察しました。立派に完成した本堂に立ち、振り返って青く静かな三陸の海を眺めながら、今更ながら仏の教えの大きさ、有難さに感じ入ったことでした。今回の定期集会は実に意義深い、中身の濃い集会でした。被災者の鎮魂のみならず、各教区長や護持会長がみんな膝を突き合わせて意見交換ができ、お互いの心の触れ合いを実感することが出来たと思っております。越姓宗務所長老師はじめ、宗務所の皆さんのいつもながらのご配慮、ご苦勞に心から感謝申し上げます。

これから2年間、皆様のお力をお借りして一緒に頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



地藏尊像開眼法要にて



護持会総会



大槌町旧庁舎前にて



完成した常楽寺本堂



任に当たって

秋田県曹洞宗青年会会長 中村卓道

今年の梅雨は例年になく空梅雨かと思いきや、予期せぬ集中豪雨に見まわれる不安定な天候になり、新聞記事によると、野菜の収穫量が減る事によって価格の高騰が予想されるそうです。御檀家さんから頂戴する野菜に、これまで以上の喜びを感じずにはいられない時節となりました。

県内御寺院諸老師におかれましては、益々ご清祥の事と拝察申し上げます。また、平素は秋曹青の活動に対しご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度より鈴木泰賢前会長の後任として、秋曹青会長を拝命致しました、第七教区長泉寺住職、中村卓道と申します。

昨年度まで副会長の任を仰せつかつておりましたが、副会長就任の打診を受けた際は「任に当たって他に譲りたし」というのが本音で

した。しかし、二年間副会長として秋曹青の活動に携わり、会員諸師と共に研鑽を重ねるうちに、次第に「任に当たって他に譲り難し」という気持ちへと変わっていきました。当会は現在百四十名の会員を有しており、多才な人材が数多くいる中で、愚生が会長の任に当たるとは考えてもおりませんでした。ご縁がありお声掛け頂きましたことに感謝申し上げます。歴代会長諸師の力には及ばずとも、背伸びすることなく、自分なりの秋曹青を築いていけたらと思う次第であります。

幸運にも副会長、事務局長、各部長はじめ有能なスタッフに恵まれたお陰で、平穩な船出を迎えることが出来ました事に感謝申し上げます。

二年間という任期の中で、何が出来るのか、何をしたらいいのか、まだ不安なところ

もありますが、宗務所様との連繋を密にし、秋曹青に出来ることであれば何なりとご協力申し上げます、宗務所様と共に秋田県曹洞宗全体を盛り上げていけたら、この上ない喜びです。

今現在、まだ仮の段階ですが、曹洞宗東北管区センター設立四十周年記念事業と致しまして「(仮)結集の道」という企画への協力要請が宗務所様よりございました。東日本大震災から五年を迎える明年、東北管区内の宗務所が心を持ち寄り、被災地への行脚を通して結集し、心を一つにして東北の力強い未来へ新たな一歩を踏み出そうという主旨の企画だと伺っております。長距離の行脚が予想されるこの企画、体力的な面を考慮しますと、まさに青年会にとってはうってつけだと思っております。然るべき時に備えて、体力を蓄えなければと密かに思う今日この頃です。

末筆になりましたが、この未熟者が会長として二年間を務めることが出来ますよう、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

特派布教師からのお便り



宮城県石巻市 広瀨寺住職 奥野 昭典

「布施」のみ教えを相承する

この度、平成27年度の特派布教巡回のご縁を賜り、秋田県南部を担当させて頂きました。

貴県には、昨年度、県北を巡回させて頂き、引き続きまして、二度目の巡回でありました。今回は、何かしら、ご当地の皆様に愛着を感じながら務めさせて頂きました。

各教場では、教場主老師様、教区長老師様、教区内ご寺院様、ご寺族様、役員の皆様が、余念なく諸準備に当たっておられ、特派布教の開催に際し、檀信徒の皆様へのお声掛けなど、大変なご苦労もありであった事と拝察申し上げ、特派布教の重責を再確認いたしました。

また、当日は、それぞれの教場におきまして、ご丁寧なお迎えをして頂き、法話では、熱心に聞法される皆様に励まされながら、非力ながら

も、管長様のおことばを、お伝えさせて頂くことができました。皆様のご助法ご法愛の賜物と感謝いたしております。

今年度は「布施」のみ教えを相承することを中心にご法話を申し上げます。

「布施」の例話として、先の東日本大震災の体験談をもとに、被災された方々が、辛く苦しい状況にありながらも、お互いを励まし、助け合った様子をお話しさせて頂きました。

大震災の現状を、まるで我がことのように、真剣にお聞き頂いている聴衆の皆様のお姿に、話をしている自分の方が涙する思いでありました。

震災から四年半が過ぎようとしています。今なお、お心を寄せて下さっている方が大勢いらっしゃることに、改めて、心強く有難く思うので

あります。

「ともに願い ともに寄り添いともに歩む」それが布施の菩薩行のお姿であるのだと信じます。

結びに、今般の特派布教巡回に際し、多大なるお力添えと、ご高配を賜りました、秋田県宗務所所長老師様はじめ役員諸老師様、教区長老師様方、教場主諸老師様方、ご山内の皆様、護持会役員の皆様、関係各位の皆様、そして、聞法の集いにご参加を賜りました多くの皆様方に、心より御礼を申し上げます。有難うございました。

皆々様の、より一層のご健勝とご多幸を、お祈り申し上げます。合掌

教区	月 日	教 場
17 教区	6 月 5 日 (金)	向川寺
16 教区	6 月 6 日 (土)	重福寺
15 教区	6 月 7 日 (日)	東光寺
6 教区	6 月 8 日 (月)	善福寺
5 教区	6 月 9 日 (火)	東山寺
8 教区	6 月 10 日 (水)	雲巖寺

茨城県

高雲寺住職 米澤智秀老師

教区	月 日	教 場
1 教区	6 月 5 日 (金)	陽澤院
7 教区	6 月 6 日 (土)	長泉寺
13 教区	6 月 7 日 (日)	洞泉寺
3 教区	6 月 8 日 (月)	慈音寺
4 教区	6 月 9 日 (火)	長禪寺
12 教区	6 月 10 日 (水)	圓通寺

愛知県

新蔵寺住職 竹川正悟老師

教区	月 日	教 場
10 教区	6 月 5 日 (金)	龍淵寺
11 教区	6 月 6 日 (土)	長泉寺
18 教区	6 月 7 日 (日)	龍泉寺
9 教区	6 月 8 日 (月)	鳳来院
2 教区	6 月 9 日 (火)	自性院
14 教区	6 月 10 日 (水)	秀泉寺

梅花特派師範からののお便り



静岡県明応寺住職 稲井 弘純

ありがとう みちのくの心を

「紫陽花の花が色深める季節、

ようこそ秋田県へ」

機内から着陸を告げるアナウンスが流れてきました。外に出ると清々しい風が私を迎えてくれ、嬉しさと緊張の混在する高揚感の中、私は秋田空港に降り立ちました。

この度ご縁を賜り、御地宗務所を梅花流特派巡回させて戴きました。

私は特派師範を拝命して今年で三年目ですが、いずこの任地に赴く時も、期待と不安が募つての移動です。巡回先にてお会いする方丈様やご寺族様、そして梅花講員の皆様と結ぶ、ありがたい法縁の場を、如何にして共に過ごしたらいいのだろうか……と。

今回私の担当させて戴いた会場は、二教区様、十教区様、十八教区様（二会場）、十一教区様、主に県

北の五会場を巡回致しました。七月に開催される「秋田全県大会」の課題曲を中心に、留意点を踏まえながら、講員さんが沢山お唱えできるように時間配分に気を付け、梅花流詠讃歌の楽しさや鈴の響きに法悦を感じる事の出来る様な講習を心がけました。

私の話に熱心に耳を傾けて下さる講員さん、また一心にお唱えする講員さん、そのお姿が、伊豆に帰った私の心の中に今でもしっかり残っています。心が和む優しい笑顔にいっぱい出会えました。少しなまりを含んだ温かいお言葉も沢山戴きました。有難いご縁に心からお礼申し上げます。

梅花は、合唱に始まり合掌に終わります。詠讃歌に真心を添える為に、そしてご先祖様のご供養の為

に、そして私達が勇氣と希望を持って明日を迎える為に、私たちは手を合わせてお唱えをします。「おばあちゃんのご詠歌をお唱えしていたね。」「おじいちゃんがお仏壇にお参りしていたね。」あなたのご家族は、あなたが合掌されるお姿を、きっと忘れないでしょう。

今年は大本山總持寺二祖峨山詔碩禪師の六百五十回大遠忌の年です。曹洞宗は「相承」をテーマに布教を展開しています。相承とは瑩山禪師から峨山禪師へと受け継がれてきた教え、心を次代に伝えていく、という姿です。今度は皆様の合掌する姿、を子供たちに「相承」していきましよう。辛いとき、悲しいとき、苦しいとき、否、嬉しいときも自然に手を合わせる、そんな家庭を作っていききたいですね。

この巡回を経て、私が皆様から戴いた「みちのくの心」を成長の糧として、共に合掌し梅花流の道に邁進していこうと思います。

この度、多大なるご尽力を戴きました宗務所長様を始め、会場主様、

教区長様、諸老師各位、師範詠範の諸先生、そして梅花講員の皆様、誠に有難うございました。末筆ながら秋田県宗務所管内皆様の益々の詠道精進をご祈念申し上げ御礼のお便りとさせていただきます。 合掌

教区	月 日	教 場
2 教区	6月15日(月)	陽廣寺
10 教区	6月16日(火)	浄福寺
18 教区	6月17日(水)	永安寺
18 教区	6月18日(木)	洞雲寺
11 教区	6月19日(金)	長福寺



確かに聞いた如来さまの声

山形県長泉院 石川 茂稔

今年四月、江川管長猥下より初めて梅花流特派師範の辞令を賜り、御法縁を頂戴して秋田県宗務所様管内を巡回させていただきました。初めての巡回という事もあり、緊張と不安に押しつぶされてしまいそうで、出発前の準備段階で、已に私の心はいっぱいいっぱいでした。しかしながら、到着早々師範会の皆さまから温かく迎えていただき、翌日の養成所では師範・詠範の皆さまが、未熟な私の講習にもかかわらず熱心に真剣な眼差しで受講して下さいました。おかげさまで緊張感も不安感もやわらぎ、各教区さまの巡回に臨むことが出来ました。

翌日、一教区教場の歓喜寺様では、通していただいた控室の床の間に、私の師でもあります丹羽禅師さまの「獅子吼」のお軸が掛けられており、初めての巡回教場で「しっかりとやりなさい」と励ましの声を聞いたように、忝なくも有難く、胸が震える想いでした。

どの会場にお邪魔させていただ

ても、笑顔でお迎えいただき、未熟な講習にもかかわらず真剣に、時に笑顔で聞いていただき、元気な声で共に合唱をさせていただきました。そこには何とも言えない一体感が生まれ、まさに如来様に包まれているような不思議な心地良さを感じました。

丹羽禅師様は詠讃歌を「あれは如来さまの声だよ。」とよくおっしゃっていたそうですが、秋田県宗務所様の巡回は、一会場一会場すべての講習が、まさに「如来さまの声」に包まれた瞬間だったと感じています。いずれにしても、普段からの方丈様、ご寺族様とお檀家様方の深く強い結びつきが無ければ、このような雰囲気はつくれないものと思います。

又、中には初心の方にも詠讃歌に触れて欲しいと、法具を持ったことの無い方が多数いらっしゃる教区様もあり、「初めての方にも詠讃歌が楽しいと感じてもらえればそれで良い」とおっしゃって下さる方丈様も

おられ、法具を持たない講習もさせていただきました。楽しいと感じる所から種まきをしてゆく工夫も大切だな、と改めて感じさせられました。

「初めての巡回地は何年経っても忘れられないものだ」と先輩師範の皆さまが申しておりましたが、私にとつて秋田県宗務所様は本当に忘れられない聖地となりました。お世話になった皆さま、本当にありがとうございます。改めて感謝を申し上げます。



秋田巡回を終えて

宮殿寺副住職 永松 隆賢

今回の巡回の初め、私にとって暗示的な「絵」と出合いました。それは、僧侶が鈴を持ち、他の巡礼者は白装束でお参りしている様子を表した版画です。その白装束姿は、亡き祖母が、檀信徒講員さんと思しき方々と一緒に写っている写真と似ていました。今から五〇年以上も前の写真ですので、梅花講として撮影されたものですが、梅花服ではなく、まさに巡礼者という装束でした。なぜそういう姿だったのかわか

げます。

教区	月 日	教場
師範詠範指導者養成所	6月15日(月)	秋田県宗務所
1教区	6月16日(火)	歓喜寺
7・8・17教区	6月17日(水)	太寧寺
13教区	6月18日(木)	龍門寺
9教区	6月19日(金)	梅林寺
9教区	6月20日(土)	安宗寺

りませんが、私の教区には、江戸中期から始まったといわれる霊場巡礼が始まる前に御詠歌として親しんだ大和流か金剛流のスタイルだったのかもかもしれません。恐らく、慰霊の為か、誓願を保つ為か、あるいは困難を乗り越えられたお礼の為か、お参りに出発する時の記念写真なのでしょう。いずれにせよ巡礼への決意を感じさせる姿です。それはまるで、私にとって今回の巡礼は、東日

教区	月 日	教 場
師範詠範指導者養成所	6月15日(月)	秋田県宗務所
12教区	6月16日(火)	普門院
14教区	6月17日(水)	快禪寺
16・6・15教区	6月18日(木)	美里音
3教区	6月19日(金)	正乗寺
4教区	6月20日(土)	長谷寺

本大震災の困難な時を支えるため、大変な思いで駆けつけて下さった秋田県の皆さまへの、感謝の気持ちを込めた、巡礼のような気持ちで巡回しなさいと示しているようでした。もっとも、巡回が秋田県と決まった時点で、他とは違う覚悟は持ちました。それはやはりあの時支えられた、というつながりがあったからでしょう。

聊か緊張もありましたが 初日の宗務所での講習は、師範、詠範の皆さまが受講者でした。大勢の方にお出で頂き、秋田県の梅花流を支える力強さをうらやましく感じました。翌日から、例年に無い暑さの中、各教区の巡回が始まりました。各会場では大勢の檀信徒議員さんや、教区梅花講をご指導されている師範、詠範みなさまも一緒に受講されました。上級者が初心者を気遣ったり、

また、疑問点を積極的に尋ねたりと、全員が一体となって講習に臨まれておりました。

印象的だったのは、皆さん一緒にお唱えした時のお声が、それぞれ味わいがあり、心地良かったことです。この味わい深さは、一緒に生活し、同じ山を見て、同じ空を見て、同じ雨、同じ雪と向き合う仲間同士だからこそ醸し出せる風景のようなものなのでしょう。講員としてお互いの存在が、掛替えのないものと認め合っているからこそ、このような味わいのあるお唱えができたのではないのでしょうか。梅花流の目指す、仲良い暮らし、明るい世の中の実践は、奉詠大会や検定ではなく、日常の合間を縫って通う、お寺でのお仲間同士のお唱えでこそ感じられるものだと思います。

終わりになりますが、私たちの梅花流詠讃歌教典は、わかりやすいお経本でもあります。どうぞ、お唱えの時以外でも積極的に歌詞に親しんでください。また、お唱えや所作に悩んでいる方も大勢いらつしゃると思います。しかしながら、一日習えば昨日より出来ることが僅かでも必ず増えています。習得する速さには個人差がありますが、歌詞が導く「ほとけ」の道は一つです。誓願を持ち

ながら、巡礼するように焦らずゆっくりと歩きましょう、私たちは待っています。

曹洞宗宗務庁総務部福祉課

「ほほえみの集い」開催について

配偶者を求めている僧侶や僧侶の配偶者となることを希望する方などを対象にして、縁を繋いでいただくことを目的とした出会いの場としての集いを下記の通り開催します。詳細は『曹洞宗報』（平成27年7月号）等にてお知らせしました。

記

1. 期 日 平成27年10月4日(日)

[予定時間]

受付 10時

開会 10時30分

閉会 16時

2. 場 所 東京都内のホテル宴会場

(参加申し込みいただいた方に後日直接ご連絡します)

[担当課] 福祉課内寺院後継者相談所 (電話03-3454-5421 福祉課)

以上

教化コーナー

即心即佛

八教区 満福寺副住職 堀 井 英 和

日頃から不勉強であるため今年度の現職研修会の日程を拝見した際、「馬祖道一禅師」、「景德伝燈録」といういかにも難解そうなテーマの前に困惑した私。当日頂いたレジュメは予想通り漢文沢山。私にはだいたいぶれべルが高すぎる講義かと感じておりました。しかしながら、中西老師の非常に具体的かつ解りやすい解説（特に永平寺での修行僧とのやりとり）により、馬祖道一禅師のお姿が徐々に私にも見え始めてきました。今から約千三百年前、唐の時代に生きた馬祖道一禅師。我々のよく知る「即心即佛」というお言葉はまさに馬祖禅師のみ教えの真髄と言えるものでありました。『景德伝燈録』中の以下の部分がそれを示しておりました。ある日馬祖が大衆に云った。「学道を学ぶ人達よ、自己の心が即ち是れ佛であることを信ぜよ。

この心は即ち是れ佛心である」。ある僧が更に問うた。「和尚はなにゆえに即心即佛と説く？」馬祖曰わく「小児の啼くを止めんがためなり」僧曰わく「啼き止むとき如何」馬祖曰わく「非心非佛」との部分。つまり、「心が佛である」と説くのは子供を騙すようなもので、泣き止んで冷静になったら、「心は佛なんているものでもない」と云われたのです。この表裏一体とれる表現は、「即心即佛」が本当に理解できれば「非心非佛」も同時に理解できるという意味でありました。何も求めない心こそ悟りだということを、「即心」と「非心」という一見相反する表現で示されたことが、馬祖禅師とそのお弟子様方の持つ深い求道心を示されているようでした。私自身、歴代祖師がお示しのところの「心」を持ち合わせているのかと問

われれば、参究心・求道心ともに全くもって取るに足らないものです。「心とは、山河大地であり、日月星辰である」（正法眼蔵）道元禅師様は宇宙の森羅万象がすべてが心だと示されています。しかもそれは「不染汚」であらなくてはいけないと。

まずは私もこの心を磨き、研修で学んだ馬祖禅師の「即心即佛」、「非心非佛」のお言葉を有り難き仏縁といたしまして、研鑽に励むことが重要と感じました。最後に、このような機会を与えてくださった中西老師、関係者各位に感謝申し上げます。

現職研修 感想

秋田市東光寺徒弟 鈴木 泰 道

僧堂安居から帰ってきて初めての、地元での現職研修会ということで、久しぶりに諸老師の講義が拝聴できるまことに尊い機会でした。

第一講は永平寺僧堂單頭の中西道信老師による、馬祖道一禅師に関する講義。馬祖は唐代を代表する禅僧であり、高祖大師もその語を引用されています。しかしながら、我々曹洞宗の法系とは異なる南岳下の尊宿であるためか、その語録に参じる機会には多くはありません。「説の如く修行する」だけではない禅僧の行履について伺うことができました。第二講は、今年度の現職研修の主題である「発願式」についてご講義をいただきました。授戒会に参加することはなかなか難しいのでその

前段階としての「発願式」という新しい儀式の提案でした。わが高祖大師には『伝戒作法』『教授文』『正法眼蔵』『受戒』巻、『得度略作法』があり、『洞谷記』には瑩山禅師のものとして「講戒式」があり、他門を尋ねれば虎関師錬の『禅戒軌』があり、教家には南岳以来の数種の「十二門戒儀」があるなど、菩薩戒の授戒の作法次第は古来複数作られ、それぞれに特色があります。このたび現職研修において提案された「発願式」をこれら従来のものと比較すると、授戒の肝心である三羯磨を用いず、血脈や安名の授与も伴わないなど、たいへん特徴のある構成になっているようです。新たな授戒式の提案を機に、従来の列祖、先徳

の心血を注がれた授戒作法と、その工夫の迹にあらためて注目する必要があると感じました。

三講座目、袴田俊英老師による人權学習、残念ながら途中からの聴講になってしまいました。後半に、年回の張り出しについてのご意見を伺いました。年回の張り出しは、悪意のある利用のされ方もあるということはもちろん注意しなければならいけれども、従来年回の張出を見ることが地域の人が死者を追憶する機会にもなっているという点を指摘され、「死者を含めた地域コミュニティ」を作っていたものを、安易に廃止してしまうのは損失も大きいと述べられていたのは大きな気付きであつたと思います。

今回は所用によりすべての講義を通して聴くことができず大変残念でしたが、さらなる研鑽の機会としたと思います。

現職研修会報告

恒例の現職研修会は七月十三日から十四日まで、秋田市歓喜寺様を会場に開催されました。今回は岩手県から一名参加で合計百八十六名の参加者を得ることが出来ました。ここ十年ほど一挙に参加人数が増えました。が、宗制の変更等で当県に限らずどの県でも増えているよう

です。さて秋田では二日間の日程で開催していますが、東北六県八宗務所ではそれぞれ地域性を考えながら特色ある日程・内容等で開催しているようです。いつか機会があれば、他県の日程・内容もお知らせ出来ればと思っております。また当宗務所も内容等も含めなるべく多くの

方々に参加していただけるように工夫をしておりますが、いつでも皆様のご意見、ご要望を受け付けておりますのでご遠慮なく申し付けて下さい。

さて今年の現職研修会はいかがでしたでしょうか。

(教化主事 國安大智)

布教委員会・布教協議会報告(五月十二日(火))

今年度の布教委員会は、米澤智秀・奥野昭典・竹川正悟三人の特派布教師様を迎えることが出来ました。今年度の管長告諭について、教化布教方針について、更に巡回に伴う留意事項も含め、懇切丁寧に解説していただきました。昼食をはさんで午

後からは引き続き布教協議会が行われました。この度、当初は相承―瑩山禪師から峨山禪師へという演題で愛知学院大学教授佐藤悦成先生にご講義をいただく予定でしたが、急遽先生のご都合がつかなくなり、同じ大学専任講師の菅原研州先生

に同じ演題でご講義いただきました。内容は、先生が東北出身ということもあって、特に秋田県の曹洞宗の歴史にも配慮していただいた分かり易いお話をしてくださり充実した時間を過ごすことが出来ました。

(教化主事 國安大智)

梅花コーナー

全国奉詠大会

平成27年5月27日から28日の2日間の日程で平成27年度梅花流全国奉詠大会が開催されました。今回の会場は神奈川の「パシフィコ横浜 国立大ホール」にて開催となりました。

オープニングは中国獅子舞という、中国華僑・華人の民間芸能の一つで、幸運を呼び寄せ厄をはらうとされているかわいい獅子達の舞から始まり、鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園と總持寺保育園の園児達による献灯献花。いよいよ開会となり「三宝御和讃」奉詠中、曹洞宗管長江川辰三禅師様が入堂され式典・法要が営まれました。猧下の御垂示をいただき、猧下退堂後大会会長宗務総長釜田隆文老師より式辞。神奈川県第2宗務所長 程木昭徳老師より歓迎の言葉があり式典終了となりました。

第3部は登壇奉詠ということで、秋田県からは講員93名の申込があり、30名が登壇奉詠いたしました。

登壇奉詠は秋田県の他に徳島県宗務所、高知県・香川県宗務所、新潟県第2宗務所、新潟県第4宗務所、各宗務所との合同の登壇奉詠となりました。奉詠曲は「釈尊花祭第一番御詠歌（歓喜）」で詠題・詠頭を秋田県14教区にかほ市禅林寺梅花講の講員、米塚ひとみ様が詠題、鈴木裕子様が詠頭を勤めていただきました。特別所作もあり難しい曲でしたが、登壇された皆さんは非常に上手にお唱えいただきました。

第4部の「大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌奉讃奉詠」では、大本山總持寺祖院の地元、石川県能登の伝統芸能である「御陣乗太鼓」の演奏、峨山禅師と大悲真誑の逸話に基づいた演出に「サンドアートパフォーマンス」が融合したオープニングにより、「大本山總持寺二祖峨山禅師讃仰御詠歌 一番・二番」を会場全員で奉詠し、「大本山總持寺二祖峨山禅師讃仰御詠歌 永光」を特派師範による奉詠を行いました。回向後、管長猧下のおことばをいただき、「大本山總持寺二祖峨山



中国獅子舞



開会宣言。副大会長・伝導部長 横井真元老師



献灯献花。三松幼稚園・總持寺保育園



両猧下



相見の拝



管長猧下、御垂示



秋田県登壇（詠題・詠頭）



御陣乗太鼓



サンドアート

禅寺讃仰御和讃」三番をお唱えし、第5部の閉会式へと移り、静座「坐禅御詠歌（浄心）」、副大会長伝道部長 横井真之老師の閉会の言葉にて大会を終了し、「まごころに生きる」の大合唱にてフィナーレを迎えました。

今回の全国大会中、特に大きな事故もなく無事に秋田に帰ってこられました安心しております。

来年は富山県富山市の富山市総合体育館にておきまして開催する予定となっております。たくさんのご参加をお待ちしております。

秋田県60周年記念奉詠大会

去る7月26日(日)秋田市文化会館に於いて、梅花流秋田県60周年記念奉詠大会が開催されました。今年度は60周年を記念し全県一堂に会しての大会となります。県内各地より81ヶ寺、一般講員768名、宗侶寺族127名、計895名の参加でした。

前日より準備を始めてリハーサルを行い大会にのぞみました。当日はお昼を会場とれないという事情により、午後からの開催ということでしたが、大きな混乱もなく開会することができたかと思えます。大会の総合司会は第6教区洞雲寺住職柴田

康裕老師に、登壇司会は浅田高明師範、村松良周師範、清水道広師範に努めていただきました。司会的一声により開会式が始まり、浅田高明・本間俊英師範による詠題・詠頭にて「花供養御和讃」が始まり、林清寺松山郁子・鷲林寺菅野悠子両詠範の献花の後、奉詠中越姓宗務所長導師上殿、三帰三拝、拈香法語、般若心経、「紫雲」奉詠、回向、普同三拝し、次に60周年記念追悼法要として拈香法語、「報恩供養御和讃」、回向を勤め、東泉寺講員様によるお誓い、最後に宗務所長より来場された方へのご挨拶を申し上げ開会式を終了しました。

第2部は登壇奉詠、全部で9登壇、9教区が2登壇、18教区が2登壇、他は合同もありました。1・2・13教区から始まり、観世音菩薩御和讃・涅槃御和讃・追善御和讃・修証義御和讃・孟蘭盆会御和讃・達磨大師御和讃・高祖讃仰御和讃・二祖峨山讃仰御和讃と続き、最後の9番登壇は宗務所梅花流指導者養成所の所員による正法御和讃の登壇奉詠でございました。講員の皆様による暖かい拍手を頂き所員も非常に励みになったかと思えます。

第3部はシンガーソングライター「やなせなな」さんによるミニコン



やなせななさん

サートを開催しました。やなせさんは浄土真宗本願寺派・教恩寺住職でございまして、檀務も歌手活動も行いながらFMラジオのDJやエッセイストとしても活躍する多才な僧侶でございます。すてきな歌声は会場におられる方々を魅了しておりました。

第4部は師範・詠範による奉詠で「三宝讃歌」「平和記祈念御和讃」「道心利行御和讃」「浄光」をお唱えしました。特に「三宝讃歌」はなかなか聞くことやお唱えすることが少ない曲ですので新鮮だったのではないのでしょうか。

閉会式が始まりすぐ静座。会場が静まりの中に師範・詠範の会会長本間雅憲師範による「浄心」の独詠。その後表彰式に進み、今回の表彰者は60周年記念奉詠大会ということで、講員として60年近く、今もお唱えをしている講員様、18教区宝勝寺講員堀内フヂエ様、3教区東林寺寺族佐藤敬子様、18教区玉林寺寺族桑

名温子様の3名の方が表彰を受けられました。一層のご活躍を祈念申し上げます。

今大会の締めくくりとして齋藤昭道副所長より皆様へ感謝の気持ちで申し上げ大会を終了しました。

今大会を開催するにあたりましては、師範・詠範の会会長本間雅憲師範老師、柴田弘一師範老師を始め大会実行委員会の諸老師の皆様、新田寺様、大会役員諸老師におかれましては、準備等大変ご難儀お掛け致しました。ありがとうございました。



閉会式

宗務所護持会定期集会報告

―地蔵尊開眼法要等―

平成27年6月25日・26日
岩手県大槌町に於いて

本年の宗務所護持会定期集会は、研修等を含めて1泊2日で東日本大震災の被災地岩手県にて開催されま



開眼法要の様子



大震災慰霊地蔵尊

した。1日目は現地に到着後、大槌町旧役場庁舎の敷地に昨年建立された地蔵尊の開眼法要・震災物故者追善法要を行いました。

大槌町江岸寺大萱生良寛ご住職が駆けつけて下さり、所長を導師に参加下さった教区長老師、教区護持会長様、所員でご供養をさせていただきました。法要後、当時の状況を大萱生老師がお話し下さいました。地震と津波、その後の火災による被害は想像を絶する内容でした。被災当時の姿を留めた庁舎前で切ないお話を伺いながら、唯々、物故者の方々のご冥福を祈り、一日も早い町の復興と人々に平安の日々が戻ることを願わずにはいられませんでした。



江岸地ご住職のお話をきく

その後、宿舎の三陸花ホテル「はまぎく」へ移動し、定期集会を行いました。昨年の会務報告並びに決算報告・本年の事業計画並びに予算についてご審議いただきました。また役員改選については、現役職の方々が皆さんが、引き続きお役をお務め下さることになりました。また、会の活動に関して、「先ほど同室になった方々と情報交換を致しました。それだけでも参加した甲斐があったと思います。思いつきですが、会報・集会の機会を通して各お寺さんの情報交換ができないものかと思えます。2教区位ずつ全県の持ち回りをするような形でも良いので、それによりかなりの情報交換ができるのではないかと思います。また十年に一回でもよいので、各護持会のアンケートをしていただければありがたいと思います。自分の寺院の護持会について、何とか『信仰の心・仏教追求の心』そういったことのスキルアップをしていきたいと思っています。いろいろ考えていますが、なかなかできません。そういう機会を与えていただければと思います。」とのご提案がありました。所長・担当主事より「できるところから具体化して、宗務所護持会の活動をさらに活性化させていきたい」との表明がありました。

した。可能な所から実現していくことを確認致しました。

2日目は、大槌・釜石の被災地を「おらが大槌夢広場」の語り部の方と同行いただき、現場視察を致しました。その後、伽藍を復興された釜石市常楽寺様に伺い、本堂にて藤原育夫ご住職より、震災からこれまでの歩みをお話しいただきました。全国からの支援や、被災された檀信徒様からも浄財をいただき、伽藍が再建された経過、そして悲しみや悩みを抱えながら生活再建へと向かう被災された方々にとって、お寺の存在が新たな心のよりどころとなっていることをご説明下さいました。

東日本大震災からの復興の歩みを、現地で学ぶ貴重な機会になりました。まだまだ、4年の歳月が経ても、「現実には厳しく、悲しみを深い」被災地の状況です。その中でお寺の存在が、輝きを増しているように思いました。

(人権擁護推進主事 佐藤徳祐)



釜石市常楽寺ご住職

仏の教えをいただいて人生を生きる

玉林寺住職 斎藤 昭 道

お釈迦様の教えは智慧と慈悲の教えであるといわれます。智慧とは正しく真実を見つめる目を持つ事であります。その真実の目で自らの存在をみつめると、多くの方々に生かされている存在であると気づくのです。そして、そのことは自らの命が大切であるようにまわりの方々の命も同じように大切である事に気づくことにつながるのです。

そして、ほかの方々を大切にする心は、慈悲心へとつながるのです。慈悲とは、慈しみ・悲しみと書きます。つまり、他の方の痛み、苦しみ、悲しみが自分自身の事として受け止められる心であります。

道元禅師さまが三十五歳になられた時に集まっている修行僧のために『学道用心集』をお書きになりました。

その最初の言葉に、

「龍樹祖師曰く、唯、世間の生滅無常を観ずる心もまた菩提心と名づく」

禅師さまは尊敬する方のお言葉をかりて、『無常を観ずる心はそのまます菩提心なのだ』と示してくださっています。

私たちは、多くの人々と共に生きています。その中で、喜びだけでなく、悲しみも共に分かち合って生きているのです。そ

の事に気付き、しっかりと受けとめた時、全ての方々の幸せを願う行いが、自らの大きな安らぎにつながっている「菩提心」に照らされた生き方になっていくということです。

それでは、すべての方々の幸せを願うところ「菩提心」をいただく生きかたとはどのような生き方なのでしょう。

先日、七〇代後半のご婦人のご葬儀をつとめさせていただきました。この方は、長年ご夫婦でお寺の行事に参加くださっていた方でありました。

ご葬儀終了後、気丈に喪主を務められたご主人がお見えになりました。

「この度は、お世話になりました。でも、50年以上連れ添った妻を亡くした心の傷はなかなか癒やせないものです。」

「じつは病院の協力もあって、亡くなるまでの一ヶ月は妻のベッドのそばに泊まって看病しましたが、亡くなりました。葬儀を終えた今も妻のことを思い出してしまい、悔しさと寂しさで胸が痛みます。」

「同居している息子夫婦は、ともに優しくしてくれます。女子大学生の孫も、おじいちゃん、前のように元気になってと励

ましてくれます。孫は、夜になると、私が1人でいる部屋にやってきて、いろいろな話をしてくれるのでうれしいです。」

「それでも、妻の写真を見るのはつらいです。近所のみなさんと話すのもつらい気持ちです。どうしたら、この悲しみを乗り越えられるのでしょうか。」とお辛い様子でお話しされたのです。

私は黙ってお話を聞かせていただいていたのですが、少しだけお話をさせていただきました。

「58年連れ添った奥様を、心から愛しておられたのですね。この世で一番つらく悲しいのは、愛するものとの別離だと思います。」

あなたは一ヶ月近く奥様のベッドのそばに泊まり、できるかぎりの看病をされました。それもなかなかできることではありません。

精いっぱい努力にもかかわらず、奥様は亡くなりました。

その時は、どんなに悔しい思いをなされたことでしょう。そんなにも悔しいのは、どんなに一生懸命看病しても、奥様の死を防ぐことができなかったからではないですか。

人が死ぬのを、実は誰も防ぐことはできません。医者も死を生に変えることはできないのです。

悲しい時には、悲しむしかありません。ですから、お悲しみの中でも、どうぞ亡き奥様のご供養の毎日を重ねていただくさい。」とだけお話しさせていただきました。

そして、じつはそのご供養の毎日の中で、ある日悲しみのご遺影が、少しだけ微笑んでくださるお顔のご遺影に変わる日が訪れるのではないかと思うのです。その日が来たときはじめて大切な方を亡くされた悲しみの日々から、一歩だけ歩みを進めることが出来たといえるのではないのでしょうか。

そして、その時感じることがおありになると思います。それは、悲しみの中にいるときは、自分だけが本当に悲しいんだとだけ感じていたと思います。しかし、その時が来て「そうか、自分だけが悲しいと思っていたが、残された私のことを気遣ってくれる息子夫婦にとっては大切な母を亡くしていたんだ。そして、毎日私に声をかけてくれるかわいい孫娘にとっては、やさしかった祖母を亡くしていたということなんだ。」と。

つまり、息子さん夫婦も孫娘さんも最愛の母であり祖母を亡くしたという同じ苦しみ同じ悲しみを待つ方々であったのです。

そのことに、気づいたとき私たちは自らにいただいた悲しみは、悲しみだけで終わるのではなく、自分以外の他の方への思いやりのころへと変わってゆくのではないのでしょうか。

お釈迦さまは次のように述べられています。

「すべては無常なり」と

智慧にて観る人は

よく苦をさとりべし

これ 安らぎにいたる道なり

(法句經二七七)

手を合わせて亡き人に想いを馳せた時、流れ行くいのちのいとなみの中で「いのちの絆」を深め、他の方を思いやるという智慧が生まれるのではないのでしょうか。他の方の悲しみ苦しみを思いやり、その思いに寄り添う生き方を実践して生きていくことが。『「こころの絆」を実感して、安らかに生きる道と言えるのです。』

ネット法話は、曹洞宗秋田県宗務所のホームページから聞くことができます。

妄言風発



この紙面は皆様の思惑
を掲載するフリーペー
ジです

— 二教区の皆さまの声 —

檀務の電子化

鷲林寺 菅野 宗一

私達曹洞宗は、お釈迦様や道元禅師のみおしえ等を脈々とお守りし、伝統的作法が滔々と受け継がれてきています。

これは、これからも引き続き守られるべき事柄であることは、申し上げるまでもありません。

しかし、現代社会の中で、便利な道具が沢山あります。

パソコンソフトで、檀務管理システムなるものが多数見受けられますが、機能が多過ぎて使い辛いし、必要だと思われる部分が脆弱で、満足できるものがなかなか見つかりませ

ん。さらに大変高額で、中にはハードと一緒のシステムだったりします。

で、汎用のMicrosoftから出ている、AccessやExcelで檀家管理をしています。

基本的には檀家様の住所録と過去帳の連繫です。

檀家様の住所録は各寺院にあるつかと思われませんが、それを電子式にAccessに入れ込む必要があります。これは檀家様の数にも依りましようが、数日から一月程度で出来ると思います。そして、各檀家様に個別のIDを振ります。当然、過去帳も電子化して、Accessに入れ込む必要があります。これは何処まで入れ込むかにも依りますが、うちでは明治元年からの入れ込みで数年掛かりました。これが一番大変な作業だと思いますが、過去帳を書いた世代の字を読み解くのが難しかったりしたためです。

そして、各戒名がどの檀家様のものかを区別するために、檀家様のIDを付けていきます。それをリレーションさせることで、檀家様の住所録のある部分をクリックすることで、その檀家様の過去帳が現れるようになります。また、過去帳を電子化してしまえば、色んな事が便利に

なります。

年回表の張り出しは、以前手書きで行っていたときは、少なくとも数日掛かっていたものが、電子化したものがあれば、数分で印刷まで終了することが出来ます。

戒名紙への書き込みも、差し込み印刷を使えば、何十枚あるうと、速攻で終了出来ます。さらに、月忌で伺った檀家さんと、今年の年忌を訊かれることがあります。以前だと、お寺に帰ってから、改めて調べて連絡報告するって事でしたが、今はクラウドという場所に過去帳を登録しておけば、スマホで過去帳を調べて、その場で答えられます。

しかし、塔婆は伝統に則って、筆により丁寧に書いてあります。ここらも電子化出来る塔婆プリンターなるものがある様ですが、そこまでやると、何か伝統を軽んじてしまった様に思えるので、それは考えていません。



宗務所創立25周年記念集会

期日 10月30日(金)

会場 秋田キャッスルホテル

受付 午後1時～

●記念講演(午後1時30分～3時30分)

「仏教が示す救いの道」 花園大学文学部教授 佐々木 閑 先生

●式典(午後4時～)

尊い命

梅林寺住職 鈴木 大智

先日、調布で小型飛行機が住宅地に墜落し尊い三人の方が亡くなられました。

原因調査中とのこと。本当に痛い限りです。

さて、話は変わりますが、一九八五年、八月十二日夕、日航ジャンボ機が御巢鷹山の尾根に墜落して今年でちょうど三〇年。

月日の経つのが早いものです。未

父として住職として…

清源寺 志田 憲昭

「夏休みの間だけだからな！」小学三年生の息子が、入院している祖父のお見舞いに行き祖父へ気合いをかけたそうだ。

住職である祖父が突然入院し、その年のお盆は小学三年生の息子が祖父のピンチヒッターとしてお盆の棚経のお勤めを手伝うことになった。

朝早く起きてはお経を練習していたが、これがずっと続いては困ると思つたのかその日は病室で祖父に気合いをかけたようだ。「頼むから早く退院して！」と。祖父は吹き出し

曾有の重大事故、大惨事で今だ鮮明に記憶しております。

五二〇人もの尊い命が一瞬にして消えさり亡くなった方は勿論、残された遺族の方々もこの三〇年どんな思いで過ごされてきたのだろうか。ある方は葬儀の様子を録画しておいたビデオを今年の一月初めて再生し、見たそうである。ビデオを見て、三〇年間胸の奥につかえていたものが、静かに溶けていきましたと記してありました。

奇蹟的に生き残り、当時、大変な話題となりました川上慶子さん（十

二歳）、学校を卒業して、看護師の道に進まれましたが、現在は仕事を辞め、息子二人、娘一人の子育てに奮闘しているそうです。

言葉では表現出来ぬ、つらい悲しい年月を過ごしたそうです。今の心の傷はいえなひではないだろうか。昨年の十月、慶子さんの兄は御巢鷹山へ慶子さんを誘ったのですが、「気分が悪くなるから」と断ったそうです。

遺族の方々の変わらぬ愛情、そして、悲しみは一生、消えることがないであろう。

残念なことに、先日、あの事故は日航機の修理ミスであるとアメリカ側から、発表があった。何ということだろうか。今になって……。人間の命をどう思っているのか。

事故があるたび、企業は、二度とこの様なことのない様にと、くり返されてきたが……。本当に二度と起こらぬ様、そして、事故のことは決して忘れないようにしていきたいものです。

て笑い「わかりました」と答えたそう。息子が立派にお経をあげる姿をととうつ住職は見ることはできなかったが、息子は小学三年生ながらも住職のピンチヒッターとしてその年のお盆は、私と一緒に檀家さんをまわった。次の年には、辨事として二度晋山式に出る機会があった。二度目の辨事の際には住職への問答のチャンスももらい、息子は「どうしたら、ホームランを沢山打てるようになりますか」と元気に問いかけ、檀家さんの笑いを誘った。中学に入

学してからは野球の練習が忙しくなり、お寺を手伝う機会はなくなってしまうが、私としては、こんなにも自然に仏門に入ってくれたことは

嬉しいことであつた。中学二年の時に義父が亡くなった。看病に通っていた妻と一緒にくみ舞に行っていた息子は「俺もおじいさんのお葬式にはお経を読むから」と自分から言った。お葬式当日は野球の練習試合もあつたが、監督に自分から話をして第一試合のみ出場し帰ってきた。二人の祖父を息子は自分のお経で見送ったのであつた。

この春高校生になった。野球の練習に明け暮れる毎日。それでも、大学は仏教学部へという意志はしっかりかたまっているようだ。つい最近の息子と妻の会話である。「俺、一度髪を伸ばしてみたいから、成人式には長い髪で来るから」妻は「お盆

はお寺の手伝いもあるから長い髪は困る」と言った。すると息子は「髪をかぶつたらいいから心配するな。お経を読む時は髪にする」妻は本気になって、髪は普通長い髪の方でしよつと大きい声で話していた。遠くで聞いて笑っていた私だったが、自分が本山からもどり、父である住職と一緒に仕事をしていた頃をなぜか思い出していた。小さな事など気にしない大きな心をもつた父であり住職であつた。いつか息子も私と一緒に仕事する日がくるだろう。父として、住職として私も精進していかなければと改めて思う。

トピックス

○叙勲祝賀会

第18教区温泉寺住職・佐藤俊英老師が長年の更生保護功績において叙勲を受けられました。

6月29日総会後、秋田県曹洞宗保護司会主催による祝賀会を開催し、老師のご祝事の祝賀とご労苦をご慰労いたしました。

○詩集『杉露庭のほとり』が刊行

第10教区大平寺東堂・亀谷健樹老師が五冊目の詩集『詩集杉露庭のほとり』が刊行されました。

以下は、詩集のあとがきのおこと

ばであります。

「ありがたいことに、第5詩集を刊行する。作品は、詩誌『密造者』に発表したものが多い。私の場合、初心と中年の時をのぞき所属詩誌は『密造者』しかない。よくも悪くも、ここで鍛えられた。

日本列島、はじつこのアン・コタンに生まれ、ここで誌に出あい、ここを終焉の地として書いた。これ以上のしあわせは無い。」
「ご老師の思いの溢れる御言葉であふれた詩集であります。

宗務所だより

退任教区長

3教区 永泉寺 猪股 廣典
7教区 寶泉寺 工藤 淳志
8教区 東源寺 森澤 建亮
9教区 倫勝寺 山田 晃一

10教区 福寿寺 奥山 謹英
11教区 長泉寺 奈良 光英
12教区 満蔵寺 黒木 泰丸
15教区 地藏院 村上 恵喜
「ご苦労さまでした」

新任教区長

1教区 鱗勝院 三浦 昌彦(再任)
2教区 鷲林寺 菅野 宗一(再任)
3教区 大蔵寺 猪股 知幸(新任)
4教区 正眼寺 藤原 孝彰(再任)
5教区 永巖寺 朽木 光紹(再任)
6教区 栄昌寺 伊藤 秀広(再任)
7教区 正福寺 伊藤 晴雲(新任)
8教区 龍像院 山谷 尚円(新任)
9教区 松源院 武田 俊英(新任)
10教区 福昌寺 保坂 康雄(新任)
11教区 吉祥院 金沢 一弘(新任)
12教区 普門院 本間 雅憲(新任)
13教区 永源寺 嵯峨 義房(再任)
14教区 天松寺 小森 辰雄(再任)
15教区 能持院 尾久 一雄(新任)
16教区 西光寺 嵯峨 宗一(再任)
17教区 満友寺 鎌田 俊龍(再任)
18教区 養牛寺 藤原 徳義(再任)
よろしく願っています

行事報告

◎梅花流講習会 4月3日
◎梅花流指導者養成所開所式 4月9日
◎寺族会総会 4月13日
◎教区長選挙日
◎東北管区布教師協議会(仙台) 4月21日

◎梅花流講習会 5月1日

◎梅花流指導者養成所 5月8日

◎布教委員会・協議会 5月12日

◎臨時所会 5月12日

◎梅花流指導者養成所 5月14日

◎布教師養成講座 5月19日

◎東北管区宗務所連絡協議会(福島) 5月21日～22日

◎梅花流全国奉詠大会 5月27日～30日

◎宗務所婦人会総会 6月3日

◎東北管区人権三者協議会(山形) 6月5日

◎梅花流講習会 6月5日

◎特派布教巡回 6月5日～10日

◎梅花流宗務所講師等研修会 6月9日

◎所会監査会 6月19日

◎梅花特派巡回 6月15日～20日

◎宗務所護持会総会・研修会(地藏尊開眼) 6月25日～26日

◎布教部写経会 7月1日

◎第1回仏教講座 7月2日

◎梅花流指導者養成所 7月3日

◎梅花流講習会 7月6日

◎梅花流指導者養成所 7月6日

◎東北管区婦人会研修会(あつみ温泉) 7月7日～8日

◎現職講習会 7月13日～14日

◎秋田市 歓喜寺様 7月24日

◎通常所会(決算) 7月26日

◎梅花流全県大会

布教師特設検定会のご案内

- ・期 日 平成27年10月28日(水)
- ・会 場 シティープラザ北上
(岩手県北上市川岸 1 丁目14－ 1)
- ・受験等級 令命 1 等、令命 2 等
- ・申請書類 布教師検定申請書
- ・締め切り 平成27年 9 月28日(月)
(宗務所経由にて布教課必着)
- ・検定手数料 5,000円
- ・検 定 科 目 布教実演及び筆記試験
- ・試験範囲 平成27年度布教教化に関する告諭・布教教化方針、『曹洞宗制』より曹洞宗宗憲及び曹洞宗儀礼規程、曹洞宗宗務庁版『仏教概論』
- ・受 付 正午より
- ・服 装 改良衣に絡子着用
- ・問い合わせ 曹洞宗宗務庁 教化部布教課 (30－3454－5560)
もしくは宗務所教化主事まで

編集後記

今年の秋田は雨のほとんど降らない梅雨となり、七月、八月と記録的な猛暑となった。各地の夏祭りでは天候の心配はあまり無かったようである。

私も妻と念願であった土崎港曳山祭りと八戸市の三社大祭という東北でも屈指の山車まつりを観覧に行った。これらの祭りは、国の重要無形民俗文化財に指定されている歴史ある祭りである。

土崎のみならず祭りは歴史の出来事を彩る武者人形のいきいきとした姿が見事であった。また、八戸の祭りはカラクリの山車であり、その圧倒的存在感と人々を魅了する荘厳さに目を見張った。

そして、両方の山車を引く小学生高学年から中学生とおぼしき子どもたちの力強い掛け声に微笑ましさを感じた。

祭りの元気な子供たちの声を聴いて間もなくの頃、中学1年生の男女同級生の殺害事件が報じられた、事件は45歳の男の犯行であるようだ。あまりに痛ましい事件に胸が痛い。二度とあってはならないことである。

これからの時代を担うこともたちが健やかに育つ環境を整えるのが大人の努めであろう。

そして、その上で札幌農学校ウイリアム・スミス・クラークのこの言葉を送りたい。「少年よ大志を抱け！しかし、金銭や利己心、名声という、つかの間のものを求める大志であってはならない。人としてあるべきすべてのものを求める大志を抱きたまえ」と。

われわれ大人も「人としてあるべきすべてのもの」を求め続けなければならぬと改めて感じた夏であった。

(昭道記)

平成27年度 曹洞宗秋田県宗務所現職研修会

於：歓喜寺 平成27年 7 月13日～14日



中西道信老師



金子宗元老師

平成27年度 梅花流全国奉詠大会

於：パシフィコ横浜 平成27年 5 月28日



平成27年（2015）

月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
10	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
OCT	宗務所寺族集会	梅花流講習会	第一教区天徳寺再会		梅花流指導者養成所		← 本山研修			→ 本山研修		体育の日		梅花流指導者養成所			第五教区香積寺晋結						第三教区龍源寺晋結			管区布教講習会			禅センター創立集会				
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
11	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月			
NOV	禅センター記念日	梅花流指導者養成所	文化の日		仏教講座・野外研修	梅花流講習会			梅花流指導者養成所	寺族中央集云(總持寺)	研修部		梅花検定(中央・奥南)			管区人権啓発研修会							勤労感謝の日										
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
12	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
DEC			梅会・仏教講座③						梅花流指導者養成所														天皇誕生日			宗務所休務							

月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JAN	元旦						→事務所休務				成人の日															宗務所梅花講役員会			梅花流指導者養成所 一泊研修		
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		
2	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
FAB				梅花流講習会	諮問委員会				布教師養成講座	教化活動企画委員会	建国記念の日												宗務所梅花講議長会			研修部					
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
MAR	梅花流指導者養成所		教化活動推進委員会	梅花流講習会				梅花流指導者養成所												春分の日	振替休日										

*通常所会（予算）

変更予定

友引 ■■■ 管区 ■■■ 宗務所 ■■■ 宗務庁 ■■■ 県内寺院 ■■■